熊本県教育委員会
認可通信教育

学習資料

論理国語

後期第四回レポート

言葉は「ものの名前」ではない

＊学習目標　言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考えよう。

◎レポートの各設問について

一　①　P２３２　②　P２３７　③　P２３５
④　P２３６　に出てきます。

二　辞書等を使ってきちんと調べること。

三　「これ」（P233・１１）とは、何をさすか。

「これ」の前文の内容をまとめます。前文の文末は「～考えです」とありますから、「一にある～の考え方」のようにまとめるといいです。

四　「いささか問題のある前提」（P233・１３）とは

後に続く文に、言い換えた内容が書いてあります。問題に、「どのような前提か」とありますから、文末は「～前提」とまとめます。

※「いささか」・・・「少し、ちょっと」
※「前提に立つ」・・・「有る物事が成り立つための条件をもとに考える」

五　「意味の幅は違う」（P234・８）とはどういうことか。

ムートンとシープの持つ「意味の幅」について、考えます。「意味の幅」は「一つ一つの語の持っている意味内容の範囲」と考えてみましょう。

六　「『悪魔の魚』なる生物は英語話者の意識の中にだけ存在していて、日本人が日本語で思考する限り、概念化することのできない」（P２３６・１）について。

英語には「悪魔の魚」という言葉があるので英語話者の中には、その概念が存在するけれど、日本語にはその言葉がないので、想像することが難しいですね。言葉がなければ、概念化することが難しいのですね。

七　「価値」（P236・１１）を言い換えた五文字の言葉はなにか

「『語に含まれている意味の厚みや奥行き』のことを、ソシュールは『価値』valeuruと呼びました」（P236・１０）とあります。それをさらに、「ある語がもつ『価値』つまり『意味の幅』は・・・」（P236・１３）とあり、言い換えています。

※「つまり」という接続語を使い、言い換えたり、要約したりします。

八　「『意味の幅』は、その言語システムの中で、ある言葉と隣接する他の言葉との『差異』によって規定」（P236・１４）されるとはどういうことか。

その言葉単独で意味が確定するのではなく、周囲の言葉との意味の違いによって決まるという意味です。

思考判断表現１　問題

一つのまとまりである星座に見える人とただの満天の星に見える人がいるのはなぜか、考えます。星座を知っている、知らないだけでなく、星座に見えるため には点と点である星をどのようにして星座に見えているでしょう。
「なぜか？」と聞かれているので「～から」と答えます。

思考判断表現２　問題

「非定型的で星雲状の世界を切り分ける作業」（P238・７）とは言語のどのような働きをたとえているか。

比喩的な表現についてどういうことをたとえているかを答えます。「非定型的」とは「一定の形を持たない」という意味です。「星雲状」とは「星雲のようにぼんやりと広がったまとまりのない様子」という意味です。言語も切れ目のない世界にまとまりを作り、名前をつけます。

主体的態度　問題

「テビルフィッシュ」「シープ」「マトン」のように意味の幅に違いがあるものなどの例を一つ挙げ、説明してください。（本文の例以外のものを書くこと）
言語の違いによって語彙の量や使い分けに差がある例を探します。検索をしてみてもいいですね。

（ＮＨＫ高校講座　論理国語）

言葉は「ものの名前」ではない①

言葉は「ものの名前」ではない②

言葉は「ものの名前」ではない③

後期第四回レポート
提出期限　１月八日（木）
【消印有効】